



COUNTER METRICS

リリース5.1

COUNTER リポー トの扱い方

フレンドリーガイド

この冊子は、**COUNTER**リリース**5.1**実務指針をわかりやすく説明した「フレンドリーガイド」シリーズの一部です

全シリーズは当社のウェブサイトの教育ページで無料でご覧いただけます
countermetrics.org.

このシリーズは、わかりやすい日本語で書かれています。COUNTER実務指針の中の文字列は、正確にはアンダースコアを用いてつながれて表記されます。たとえば、Data Typeは正確にはData_Type、Total Item Investigationsは正式にはTotal_Item_Investigationsと表記されますので、ご注意ください。

この冊子で説明されるもの

どうやってCOUNTERレポートは入手できる?.....	3
SUSHI サーバーの利用.....	3
出版社のウェブサイト上の図書館管理人ツール.....	4
レポートの形式	5
スプレッドシートのツール.....	6
フィルター	6
ピボットテーブル	7

どうやってCOUNTERレポートは入手できる？

COUNTERレポートとCOUNTERレポートのスタンダード・ビューはすべて、機械可読なJSONスキーマ（SUSHIプロトコルを介してダウンロード可能）、または表形式（例：Excelスプレッドシート）で入手できます。

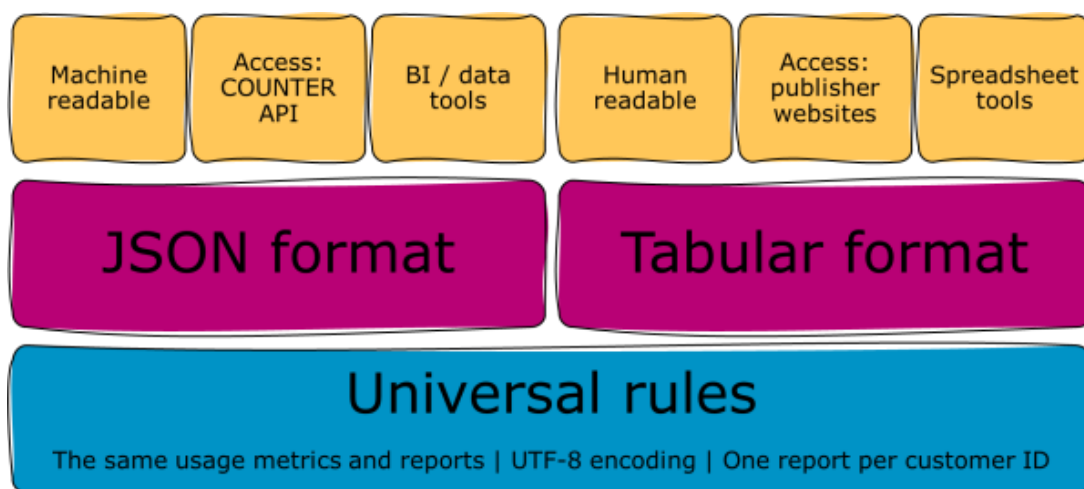


Figure 1. 2つのCOUNTERレポート形式

利用統計はブラウザに非依存であるべきですので、出版社はGoogle Chrome、Microsoft Edge、Mozilla Firefoxの最新バージョンをサポートしていただくことを切にお願いしております。

通常出版社は顧客IDごとにCOUNTERレポートを提供するよう求められていますが、例外が2つあります。1つ目はオープンアクセスの報告（「COUNTERとオープンアクセス」を参照ください）で、2つ目はコンソーシアムの報告（「コンソーシアム（団体）向けのCOUNTER」を参照ください）です。

COUNTERの4つのレポートとCOUNTERレポートのスタンダード・ビューは、JSON形式と表形式の両方で、Code of Practiceにサンプルがあります。

SUSHI サーバーの利用

SUSHIとは図書館が利用統計を収集するために設計されたソフトウェアプロトコル（API）で、COUNTERに準拠した出版社は、すべてSUSHIをサポートしています。SUSHIはJSONスキーマでレポートを提供します。JSONは、表形式の形式よりもXMLに似た構造化データ形式です。JSONについては、このガイドの後の方で詳しく説明します。

SUSHIセットアップでは、各出版社にはSUSHI準拠のサーバーをもち、図書館はなんらかのクライアントソフトウェアを使用してレポートを収集することができます

。クライアントには、デスクトッププログラムから、クラウドベースの商用収集サービスまで、さまざまなものがあります。また、普通のウェブブラウザを使用することもできますが、推薦はいたしません。

COUNTER Registryで、COUNTERに準拠するレポートを提供している出版社のSUSHI情報を確認いただけます。Registryでは、監査を受けたすべてのプラットフォームの詳細を提供しています。以下のサイトをご覧ください。

<https://registry.countermetrics.org/>.

COUNTER Registryにおいては、各々の出版社のSUSHIサーバーのベースURLであるSUSHI URLがご覧いただけます。また、サーバーで必要な認証の種類についての情報も確認できます。通常はCustomer ID(顧客ID)が必要ですが、出版社によって他のセキュリティ要件がある場合もあります。

SUSHIサーバーにログインしたら、ベースURLにパスをいろいろ追加して、自分に必要な情報を取得することができます。ベースのURL、<https://usage.reporting.service/counter5/sushi/r51/> には、以下の4パターンの追加が可能です。

- **Status** はSUSHIサービスが利用可能かどうかを示します。
<https://usage.reporting.service/counter5/sushi/r51/status> リリース5.1より、ステータスは公共情報となっていますので、ログインの必要はありません。
- **Reports** はSUSHIで取得可能なCOUNTER レポートを示します。
<https://usage.reporting.service/counter5/sushi/r51/reports>
- **Reports/ReportID** は特定したレポートを示します。
<https://usage.reporting.service/counter5/sushi/r51/reports/{reportID}>. たとえば /reports/TR と特定した場合、タイトルレポートを表示します。
- **Members**はコンソーシアム（団体）のメンバー名を表示します。
<https://usage.reporting.service/counter5/sushi/r51/members>

出版社のウェブサイト上の図書館管理人ツール

多くの出版社プラットフォームは、そのウェブサイトを通じてCOUNTERレポートを含む図書館管理や購読管理のための管理人ツールを提供しています。これらのツールは、「図書館向け情報」「購読管理」「図書館管理」などの名のもとで提供されることが多いです。図書館管理人ページからレポートをダウンロードする場合、JSON形式または区切りファイル形式でCOUNTERのレポートをダウンロードするオプションがあるはずで

レポートの形式

既に述べた通り、COUNTERレポートには2つの形式があり、それはJSONと区切りファイルです。

JSONや区切りファイルの場合、いわゆる書体や色などのフォーマットは無視できますが、COUNTERレポートとCOUNTERレポートのスタンダード・ビューは、必ず図2に示される標準構造に従っていなければなりません。また、レポート（JSONと区切りファイルの両方）はUTF-8エンコーディングを使用するようになっているので、特殊文字は保持される仕組みになっています。

JSONファイルは機械可読のため、プログラミングコードのような形式になっています。ですのでJSONファイルはレポートツールやスプレッドシートプログラムに読み込身が可能で、元のデータが人間が読みやすい形やグラフに簡単に加工されることが可能です。

区切りファイルは、ExcelやGoogleシートを含む通常のスプレッドシートプログラムで開いて読むことができます。COUNTER準拠の区切りファイルは、「カンマ区切り」（.csv）またはタブ区切り（.tsv）のファイル形式になります。

HEADER	(rows 1-13)						
BLANK ROW	(row 14)						
COLUMN HEADINGS	(row 15)						
BODY							
Report item description	Platform	Report item identifiers	Parent item	Report / Attributes	Metric types	Reporting period total	Usage by month

Figure 2. COUNTERレポートのデフォルト構造

レポート形式のまとめとして、

- レポートヘッダーは、レポートの作成に使用された計13個の情報を含まます
- レポートの本体部分
 - JSONファイルの場合、各レポートアイテムは入れ子構造のプログラムコードとして表示されます。
 - 区切りファイルの場合、要素と属性名を使用した1行のヘッダーが最初の行に表示され、その後にメトリックが続きます

	A	B
1	Report_Name	{Report Name}
2	Report_ID	{Report ID}
3	Release	{COUNTER Release}
4	Institution_Name	{Institution Name}
5	Institution_ID	{Institution identifiers in the format {namespace}:{value} with multiple identifiers separated with ","}
6	Metric_Types	{Metric_Type list separated with ","}
7	Report_Filters	{Report filter list as {name}={value} pairs separated with ";" and multiple values separated with " "}
8	Report_Attributes	{Report attribute list as {name}={value} pairs separated with ";" and multiple values separated with " "}
9	Exceptions	{Exceptions in the format {Code}:{Message}{{Data}} with multiple exceptions separated with ";"}
10	Reporting_Period	{Date range of the report in the format Begin_Date={yyyy-mm-dd}; End_Date={yyyy-mm-dd}}
11	Created	{Date report run in the format {yyyy-mm-ddThh:mm:ssZ}}
12	Created_By	{Name of the organization creating the report}
13	Registry_Record	{Link to Registry record as a URL}
14		

Figure 3. 13行のCOUNTERレポートヘッダーの標準構造。

スプレッドシートのツール

当社のメディアライブラリでは、このトピックに関して学べる、「Working with COUNTER 5 reports in Microsoft Excel（エクセルでCOUNTER 5のレポートを扱うには）」という講義を提供しております。この講義は本来リリース5向けに作成されたものですが、リリース5.1にも利用可能です。また、Excel向けのヘルプガイドもおすすめです。これらのガイドでは、今ご覧になっているこの冊子よりも詳細な情報をご確認いただけます。

フィルター

フィルターは便利なツールで、これをつかえばレポートの中身を再配置したり、除外したり、特定の情報のみを表示したりすることができます。一般的な例として、タイトルレポートをフィルターして、Data TypeをBookに絞って表示したりすることもできます。あるいはデータベースレポートをフィルターしてインベスティゲーション（調査）なし、あるいはリクエストなしで表示することもできます。また、アイテムレポートをフィルターし、Access TypeがOpenのアイテムのみを絞って表示することもできます。フィルタは組み合わせることもでき、やり方によってはかなり詳細なレポートを作成することができます。

区切りファイルの15行目（列見出し）にフィルタを追加すると、フィルタの操作を開始することができます。

ピボットテーブル

当社のプロジェクト・ディレクターはピボットテーブルの大ファンであります。ピボットテーブルは、COUNTERレポートなどの大規模なデータセットを素早く要約するのに便利であり、データをグラフやチャートに簡単に変換することができます。レポート本体の任意のセルにカーソルを置き、「挿入 > ピボットテーブル」をクリックするだけで簡単に作成できます。

フィルターとは異なり、ピボットテーブルでは異なるカテゴリのデータを簡単に合計することができます。例えば、タイトルレポート全体でのUnique Item InvestigationsとUnique Item Requestsの合計を数えたいとき、ピボットテーブルを設定して、行にメトリックタイプを、値にReporting Period Totalを使用すれば、即で回答が得られます。

より詳しい情報について

より詳しい情報については、Code of Practice (<https://cop5.countermetrics.org/en/5.1.0.1/>) とCOUNTER (countermetrics.org).

答えがどこにも見当たらないご質問がある場合は、当社のプロジェクト・ディレクターの下記のメールアドレスにご一報ください。 tasha@countermetrics.org



COUNTER METRICS

スポンサーの皆様ありがとうございます。このガイド
は以下の言語で利用可能となる見込みです。

Chinese

スポンサ SpringerNature

SPRINGER NATURE

French

翻訳 Couperin Consortium and the Canadian
Research Knowledge Network

German

スポンサ Thieme

 **Thieme**

Japanese

翻訳 Yuimi Hlasten, Denison College

Spanish

スポンサ Gale

 **GALE**
